



## 大石田AIR公演「源 MINAMOTO」が開催

石田AIR公演「源 MINAMOTO」が11月22日(金)に虹のプラザ「なないろホール」で行われました。

今回の公演では、初めて建築分野のアーティストを迎へ、テーマでもある“最上川三難所”をイメージしたオブジェや様々なジャンルのパフォーマンスが披露されました。



## 長年の活動に感謝を 退職消防団員に感謝状を贈呈

職消防団員感謝状贈呈式が11月8日(金)に大石田町役場「大会議室」で行われ、大石田町の消防団として長年地域の安全・安心のためご尽力いただき、令和6年4月30日をもって退職された34人に庄司町長から感謝状が贈呈されました。

長年の活動大変お疲れ様でした。

## 自分の将来について考える 小学生へキャリア教育

サンスタディのキャリア教育の一環として、町内小学校3校の5年生が町内出身で都内の企業で働く小内久史さんから「働くことについて考える」をテーマにした講演を受けました。小内さんは自身の勤務経験を踏まえ、“働く”とは誰かに価値を提供することだと話し、子どもたちは、誰にどのように喜んでほしいかを考えいました。

大石田小学校の矢作蒼梧さんは、「小学校の先生になりたいので、毎日少しづつ勉強を頑張りたい。友だちに教えながら、自分も成長したい」と話していました。



## 町内小学生が 大きく育った 自然薯を収穫・販売体験

自然薯の収穫体験活動が、11月14日(木)に大石田南小隣の自然薯畠で行われました。これは、特産の自然薯栽培を通して、将来の職業選択や郷土への愛着を深めてもらおうと、大石田町新作物開発研究会(海藤明会長)の協力で毎年実施しているものです。

この日は、町内3小学校の6年生児童39人が参加し、大きく育った自然薯を収穫しました。児童たちは、研究会のメンバーに指導を受けて土を掘り返し、長いもので1メートルほどに育った立派な自然薯を収穫しました。

参加した高橋 蓮さん(南小)は「1から育てたので自分で調理して美味しく食べたい」と話していました。

また、収穫した自然薯の販売会が、11月27日(水)にあったまりランド深堀で行われ、児童が収穫した自然薯を購入しようと町内外から多くの方が訪れました。販売会は、町内3小学校の6年生児童が2グループに分かれて行われ、児童たちの販売開始の掛け声とともに、用意されたおよそ100本の自然薯が飛ぶように売れてきました。

児童たちはこの日のために、店頭に設置する看板や自然薯の食べ方などをまとめた手づくりのパンフレットなどを作成しており、大石田特産の自然薯を積極的にPRしていました。

販売会に参加した佐々木 悠汰さん(北小)は、「呼び込みを担当しましたが、楽しかったです。あっという間に売れてしまって驚きました。是非とろろにして食べてほしいです」と話していました。